

別紙様式 1

令和 6 年度川尻中学校区研究推進計画

校番 (26) 呉市立川尻小学校

校長名 森田 修一

1 学校教育目標

郷土を愛し、自立する子どもを育てる
～挨拶とボランティア、夢や目標への挑戦～

2 目指す児童生徒像

- 基礎学力を身に付け、自分の考えを進んで表現できる児童生徒
- 地域を愛し、感謝と思いやりの心を持ち、貢献しようとする児童生徒

3 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
後期	各教科における基礎学力を確実に身に付けることができる。	既習事項を関連付けたりよりよい表現方法を検討したりしながら、自分の考えを効果的に伝えることができる。	自ら目標を設定し、主体的に計画を立て、自ら調整することができる。（自立） 地域の一員として自覚を持ち進んで貢献することができる。（郷土愛）
中期	各教科における基礎学力を確実に身に付けることができる。	自分の考えを相手や目的に合わせた適切な方法で伝えることができる。	自ら目標を設定し、計画的に取り組むことができる。（自立） 地域に感謝や思いやりの心をもって行動することができる。（郷土愛）
前期	各教科における基礎学力を確実に身に付けることができる。	分かったことや考えたことを分かりやすく伝えることができる。	目標をもち、やろうと決めたことに粘り強く取り組むことができる。（自立） 体験を通して地域の人や自然の良さを知り、地域に愛着をもつことができる。（郷土愛）

4 研究主題等

(1) 研究主題

主体的に学ぶ児童生徒を育成する教育活動の創造
－児童生徒の問いを生かした授業づくりを通して－

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

令和 6 年度の呉の学校教育の重点施策の一つである「授業改善の推進」のキーワードである「子どもの主体的な学びの実現」「全ての教職員で進める授業づくり」を受け、昨年度に引き続き、子どもの問いを生かした授業づくりを通して、主体的に学ぶ児童生徒を育成する。昨年度より、固定化した児童生徒のみの意見で対話が進んでいくことや、児童生徒の対話で広がっていく思考を教師が深めるように上手くファシリテートするのが難しいといった課題を意識して授業改善を図ってきた。この課題は、学力差により問いを発して積極的に意

見を述べる児童生徒に偏りがあることが一つの原因であるとも考えられる。

今年度は、このような課題を反映させ、「児童生徒の問いを生かした授業づくり」について引き続き研究を行っていく。具体的には、「川尻中学校区の授業モデル」を基に、問いについて全体やグループの交流で自分の考えと他者の考えを比較したり、関係付けたりして話し合う時間を設けるなど授業展開を工夫することで、出てきた問いをどの児童生徒も主体的に追求していけるようにする。また、問いについて話し合うことで、どのように児童生徒の考えを深めさせていくか児童生徒の姿を具体化し、その手立てを明確化しておくことで、教師が話し合いをうまくファシリテートできるようにする。さらに、家庭学習においても予習・復習を行わせ、個別指導を充実させることにより、基礎学力の向上を図るようにする。単元づくりにおいても、「本質的な問い」や単元全体の課題を設定し示すことで、児童生徒に学びの必要性を感じさせながら学習に臨ませるようにしていく。

以上のように、問いを生かした授業づくりのイメージを全教職員でさらに具体化し研究を進めていけるように、教師同士が授業を見合い、議論する機会を定期的に設定して授業づくりの向上を図っていく。さらに、小中合同で教科部会をもち、九年間を見通した教育を推進するとともに、児童生徒の学習の基盤となる学校生活を充実したものとするため、「確かな学力」「夢や志を育む教育」「健やかな体」の三部会で取り組みを進めていく。

(3) 研究仮説

一人一人が思考を働かせる場を位置づけた「川尻中学校区の授業モデル」を基に、児童生徒の問いを生かした授業づくりを工夫し、児童生徒が主体となって課題解決を積み重ねていけば、児童生徒自ら学ぼうとする意欲が高まり、学習内容が定着するであろう。

5 研究内容

(1) 学力向上に向けての取組

- ① 「課題発見・解決学習」をもとにした「考える授業」の実践
- ② 表現力の向上
(「条件付き作文」や「生活ノート」によって書く力をつける)
- ③ 学力補充教室など個別指導の充実
- ④ 読書活動の充実
- ⑤ 家庭学習習慣の定着に向けた取組(「家庭学習の手引き」や「補充教室」の活用)

(2) 夢や志を育むキャリア教育

- ① 無言清掃への取り組み方を統一して実施。
(「もくもく掃除」や「無言清掃」の意識を高め、良さを実感させる)
- ② 小中交流での地域貢献(挨拶運動、小中合同清掃活動(4・9清掃)等)

(3) 食育や体力向上に向けての取組

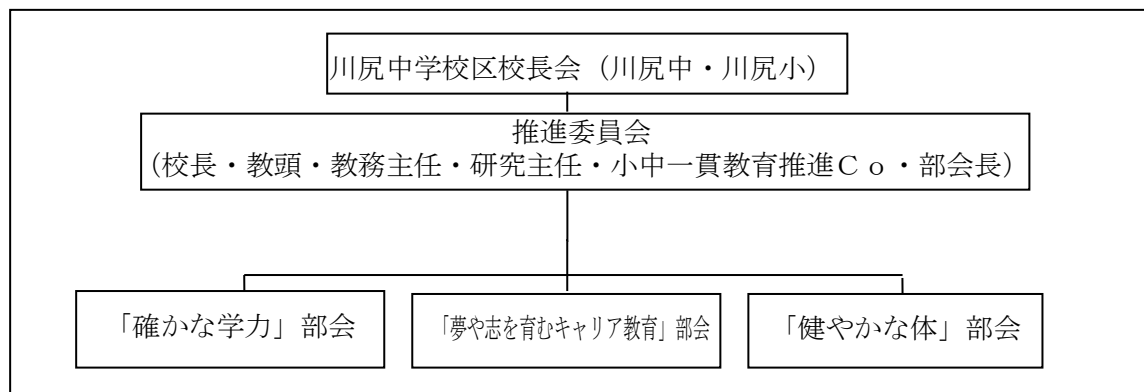
- ① 「食育の9年間のストーリー」を活用した小中一貫の食育
- ② 定期的な小中一貫の「元気アップ3 DAYS」の実施
- ③ 「くれチャレンジマッチスタジアム」への積極的な参加

6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
① 各教科において、資質・能力の育成に重点をおいて「考える授業」を実施することにより、主体的に学ぶ児童生徒を育成することができたか。	児童・生徒アンケート 教師アンケート	児童生徒の肯定的評価 教職員の肯定的評価	84.0% 76.4%	85%以上 85%以上
② 「書く力」の向上が見られたか。	児童・生徒のレポート 全国学力・学習状況調査の結果	文章構成や文字数、キーワード等の条件に沿って書いている。 書く能力の正答率	小学校 59.0% (-3.3) 中学校 66.3% (+18.1)	小学校 70%以上 中学校 70%以上
③ ボランティア活動などの体験活動を通して、一人一人の良さを認め合い、お互いを尊重し合うことで、自尊感情が育ち、地域に対して愛着・自立・貢献しようとする気持ちが向上したか。	児童・生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価	小学校 74.0% 中学校 97.8%	90%以上
④ 小中一貫で、「元気アップ3 DAYS」や「くれチャレンジマッチスタジアム」の取り組みの充実を図り、食育や体力向上を図っているか。	児童・生徒アンケート	児童・生徒アンケート	小学校 73.0% 中学校 97.9%	90%以上

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等 (中→小, 小→中)

(中→小)

- 外国語等 (中学校教諭による) : 小学校第6学年 (各学期に1回程度)

(小→中)

- 学級活動 (栄養教諭による) : 中学校第1・2・3学年, 特別支援学級 (小→中)

イ 小学校教科担任制等

- 第3・4学年 図画工作・音楽
- 第5・6学年 理科・家庭科
- ※高学年で交換授業

8 推進計画

月 日	内容	
	川尻中	川尻小
4月19日（金）	全体研修（今年度の方向性）	
10月29日（火）	授業研究（中学校 2年）	
11月19日（火）	授業研究（小学校 4年）	
未定	全体研修（今年度の振り返り，来年度の方向性）	

9 その他

- 各校での取組の様子が交流できるよう小中一貫便りを学期に1回発行する。

※ 研究構想図，カリキュラムマップを添付する。